

[会 計 室] 経 営 計 画 書 (総 括 表)

■事務事業の総括

No.	事務事業名	様式 区分	H25 年度計画額 (単位：千円)		H25 年度必要人工	
			計画額	内特定財源	職 員	臨時職員
1	会計事務	B	4, 2 1 3	0	2	1
合 計			4, 2 1 3	0	2	1

■特記事項

事務事業は、「会計事務」・「公金運用事務」・「備品・消耗品管理事務」に区分されているが、計画額との整合性を図るため「会計事務」として一括計上する。

事業別経営計画書【B】

■基礎情報

所属名	会計室	No.	1・2・3
事業名	会計事務、公金運用事務、備品・消耗品管理事務		
総合計画の 体系	大分類	5	効率的な行財政運営
	小分類		
目的	適正な資金管理及び物品出納事務を行うこと		
事務内容	①会計窓口事務及び支払調書の審査 ②現金及び物品の出納、保管 ③公金の運用		④1人1品運動の推奨（事務用品等） ⑤備品の異動等の管理
現在における 経過又は課題	①最も確実で有利な方法による公金運用 ②指定金融機関から毎年提出される要望書の対応		
平成25年度の 目標又は 改善策	①リスクの低い国債運用（国庫短期証券の購入等）を図る。 ②指定金融機関からの要望書のうち、特に振込組戻手数料（エラー分）については、1件のコスト840円を職員が常日頃より意識し、きめ細かな審査を行う。		

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
	①公金の運用 <ul style="list-style-type: none"> ・民間等が開催する「資金運用に関する研修」に参加し知識を得る。 ・証券会社等の専門家から国債に関する新情報や経済情報を得る。 ・四市二町会計事務研究会などを通じて近隣の状況を把握する。

□3年間の目標

目標	・ ・					
項目（単位）	H23 計画	H23 実績	H24 計画	H25 目標	H26 目標	H27 目標

□2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H26 年度	・ ・
H27 年度	・ ・

■事業コスト

		単位	H23 年度決算額	H24 年度当初予算額	H25 年度計画額
事業費		千円	2, 4 5 3	3, 4 8 3	4, 2 1 3
(内特定財源)		千円			
人工	職員	人工	2	2	2
	臨時職員	人工	1	1	1
	計	人工	3	3	3

■平成 25 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
合計		

■平成 25 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

種別	項目(科目等)	計画額	増減額	内容
	財政事務事業(指定金融機関 派出所出納事務委託料)	2, 730	730	指定金融機関派出所出納事務委託料に不足を生じるため。 この委託料については、平成14年度から指定金融機関より要望書の提出があり、平成17年度から100万円、平成24年度は200万円の予算を組んでいるが、近隣市町の状況【江南市・岩倉市・扶桑町→現行273万円】を勘案し、満額要求を行う。

■特記事項

- 会計室の予算は、政策推進課(財政管理費)と行政課(財産管理費)で計上している。
- 事務事業は、「会計事務」・「公金運用事務」・「備品・消耗品管理事務」に区分されているが、計画額との整合性を図るため一括計上する。

■ 目標又は改善策に対する取組内容

- ・ 資金運用研修への参加、証券会社や近隣市町の担当者からの情報を得るなどして運用の基本的知識の習得に努めた。これまで各基金単独で運用を行っていたが、今年度からは基金合算での運用を行い、効率化を図る一方、歳計現金の運用をはじめた。大口定期での運用分については、利率交渉に努めた。また、公金取扱基準についても見直しをおこなった。
- ・ 組戻しなどのエラー削減に向け、担当課への注意喚起を図る一方、伝票審査でのエラーチェックの徹底に努めた。

■ 評価

- ・ 公金運用については、昨年よりも20億円増の運用総額となったが、運用益は226万円から174万円と前年度から52万円下回った。主な原因は、利回りの差で、昨年は平均して0.1%であったが、今年度は0.07%とダウンしたためである。
- ・ 振込組戻エラーについては、昨年度81件から今年度は75件と6件の削減となった。今後も口座確認の徹底を図り、さらにエラー削減に努めたい。